

【新学長ご挨拶】

学長に就任して

京都医療科学大学 学長 ^{たまき} 玉木 ^{ながら} 長良

本年4月から遠藤啓吾前学長の後任として、新しく学長に就任しましたので、よろしく
お願いいたします。

本学の特徴は、数年後に創立100周年を迎える全国で最も古い伝統を持ち、多くの卒業生、先輩が全国で活躍していることです。学友会の活動が本学にとって、また在学生にとって大きな励みとなっています。

私自身、放射線診療に携わって50年近くになります。25才から42才までの20年足らずの間は主に京都大学で、42才から64才までの20年余りの間は北海道大学において、そして64歳から6年間は地元の京都府立医科大学で、一貫して放射線診療、特に画像診断、核医学の仕事に従事してきました。この間、多くの本学卒業生をはじめ、全国の診

療放射線技師と一緒に仕事し、その優れた技術に助けられ、豊かな人間性や指導力に感服していました。在学生もいずれは先輩のような立派な診療放射線技師となることでしょう。在学生にとって5年後、10年後、20年後に自分がどのような仕事をしているか、どのような地位にあるか、先輩を目標として勉学に励みます。学友会の方々には在学生の良い見本、目標になってもらえればと思っています。

最近では医療チームとしての共同作業(ワークシェアリング)が注目されています。これまでは医師のみしか実施できなかった医療行為の多くが、看護師や診療放射線技師が実施できるようになっています。タスクシフトしているのです。たとえば、患者さんの血管確保をしたり、薬や造影剤などを注入したり、あるいは画像診断の補助をしたり、などが可能となっています。これによって医療チーム全体として、医療行為がよりスムーズになります。そのためには、診療放射線技師にも在学中から医療行為についての教育を受けることが求められます。またこの共同作業を円滑に実施するためには、医療チーム全体の協力がより大切になります。皆さんには今後業務の中で医師や看護師ら、医療チームの主體的な存在として、お互い協力し、情報交換できるような姿勢を学んでいただきたいと願っています。

自分の教えた学生が立派に社会人として仕事をしているのは、私たち教育者にとってかけがえのない財産です。これからも病院で、学会で、研究会で、学友会で、私を見かけたら気軽に声をかけてください。

学友会の皆様のご健勝を祈念しています。また本校に対してどうぞこれからもご指導とご鞭撻をお願いします。

以上